

コロナ禍で深める友好交流都市との絆

本市は1999年11月、中国重慶市江津区およびモンゴル国ウランバートル市と友好交流都市を締結。20年以上にわたって交流を続けてきました。

新型コロナウイルスの影響で往来が難しい現在も、友好交流都市30周年に向け、形を変えながら交流を続けています。

◎問い合わせ コミュニティ文化課国際化推進室 ☎23-2295



インタビュー 第二の故郷「都城」



李 昱さん (中国出身)

結婚をきっかけに来日して18年が経ちました。昔から日本に憧れていて、日本で生活したいと思っていました。来日した当初は、言葉も文化も分からないことだらけでしたが、

たくさんの人に助けられて今では都城が第二の故郷です。都城は、人が優しくて住みやすい街。自分の店を持って6年が経ちましたが、多くの方々に支えられ、ここまで来られたことにとても感謝しています。

コロナ禍以前は、盆地まつりの踊り連をはじめ、国際交流協会のさまざまな活動に積極的に参加し、都城在住の外国人の皆さんと交流を深めてきました。あのにぎやかな日々を懐かしく思い、また以前のように活動できる日が来ることを願っています。

また、本市との友好関係をさらに発展させるため、市民交流事業の再開などが期待されています。

これまで培ってきた友好関係をさらに深め、信頼関係をより強固なものとするために、公式訪問などの行政間交流を継続していきます。



2014年重慶市にて公式訪問の様子

【今後の友好交流事業】

中国重慶市江津区

【現在の街の様子】

重慶市では、すでに1,500万人以上がワクチン接種を終え、18歳以上の初回ワクチン接種率も80%を超えました。ワクチン接種が進んだことで、街にも少しずつ日常が戻りつつあります。

また、中国ではスマートフォンのアプリを使ったワクチンの接種証明が行われています。公共交通機関や病院、大型ショッピングモールなど、大勢の人が集まる場所ではこの証明がないと入場を拒否される場合があります。



接種証明の画面イメージ

モンゴル国ウランバートル市

【今後の友好交流事業】

例年、ウランバートル市と行っている青少年交流事業は、新型コロナウイルスの影響により実施が困難となり、中止を余儀なくされています。しかし、オンラインでの交流やバーチャル番組の制作など、これまでに継続してきた交流の絆が途切れないうよう協議を進めています。

【現在の街の様子】

昨年1月から現在まで、ウランバートル市内のほとんどの小中学校は対面でなく自宅でのリモート授業となっていました。市民からは子ども

もたちの教育の遅れが心配されましたが、9月の新学期から全国的に登校が一部再開される予定です。

一方で、同市内では復興へ向けた力強いメッセージや看板が市街地の至る所で見られるようになりました。また、対新型コロナウイルスのポスター展が開催され、どのポスターもコロナ禍からの復興を願う力強いメッセージを伝えました。



コロナ禍からの復興を願うポスター

【オリンピック選手とオンラインで交流！】

当初、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に出場するモンゴル国レスリング代表選手が本市を訪れ、市民との交流を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響でやむなく断念。そこで8月10日、西岳学校体育館でオンライン会議システム Zoom を

利用した交流会を行いました。

交流会では、レスリング女子フリースタイル53^キ級で銅メダルを獲得したボロルトウヤ・バトオチル選手をはじめ、5人の代表選手らが参加。西岳中学校生徒による「やっこ踊り」が披露されたほか、選手らへの質問コーナーも設けられました。質問コーナーでは、モンゴル国の民族衣装を身



選手への質問コーナーの様子



西岳中学校生徒によるやっこ踊り

注目 topic

に着けた生徒たちが選手へ質問し、選手らは生徒一人一人の質問に真摯に答えていました。また、どの選手からも「次回は直接顔を合わせて交流できることを願います」という言葉があり、離れていても絆が深まったことを感じられる貴重な時間となりました。

「友好交流都市」展示コーナーを設置します

市民の皆さんに両都市のことを改めて知ってもらうため、展示コーナーを設置します。

●日時 11月8日(月)～12日(金)

●時間 8時30分～17時15分

●場所 市役所1階市民サロン

●内容 パネル展示(友好交流のあゆみ、各都市紹介など)、民族衣装試着体験

※期間中の14時～15時まで、国際交流員が民族衣装試着の手伝いをします



インタビュー 憧れの日本での生活



アンフチメグ・
オウグロウニーナランさん
(モンゴル国出身)

お菓子作りの勉強をするため、2019年に来日しました。現在、病院のキッチンで技能実習生として働いています。私は勤務先で初めての技能実習生でしたが、皆温かく迎え入れてくれました。最初は言葉の壁があり、分からないことやできないことがたくさんありましたが、周囲の丁寧なご指導のおかげで今日に至っています。

二十歳の誕生日には、会社の皆さんに成人のお祝いをしていただきました。人生の節目に振袖を着て日本でお祝いしてもらい、一生忘れられない思い出になりました。

日本の皆さんの温かい心に触れながら、充実した毎日を送っています。